

ちょう で
蝶はするりと出てきた。

しかしその胴体はふくれあがり、羽は小さく縮れていた。

おとこ はね のび おお どうたい しゅうしゆく
男は、羽はすぐに伸びて大きくなり、胴体も収縮してうまく
と ちょう み
バランスが取れるようになるだろうと、そのまま蝶を見ていた。

しかし、期待したことはどちらも起きなかった。

それどころか、蝶は死ぬまで 縮れた羽とふくれあがった胴体を

ひ きき ちやう し ちち はね どうたい
引きずって、あたりを這い回ることしかできなかった。

さいご と
最後まで飛ぶことはなかった。



ちょう きゅうくつ ちい あな で く
蝶が窮屈なさなぎの小さな穴からもがきつつ出て来ることは、
たいえき どうたい はね じゅんかん かみ さだ ほうほう
体液を胴体から羽へと循環させるために神が定めた方法であり、
かてい とお ちょう で き とき はね ひろ
その過程を通してこそ蝶はさなぎから出て来た時に羽を広げて
と
飛ぶことができる。

しんせつしん さき いそ おとこ
親切心で先を急いだこの男は、

かみ せつり りかい
その神の摂理を理解していなかった。

私たちの人生でも、まさにもがき苦しむことが必要な時がある。

もし神が何の苦勞も与えないのなら、

私たちもまたあの蝶のようになるだろう。試練を乗り越えてこそ
強くなれるのだ。そうでなければ決して飛ぶ事はできない。

